

## 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

### 1. 学校概要

学校名 静岡県立東豊田こども園  
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注 1</sup>  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注 2</sup> ☐ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☒ その他（ 認定こども園 ）  
※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む  
所在地 〒422-8005  
静岡県静岡市駿河区池田492-2  
E-mail higashitoyodakodomo@city.shizuoka.lg.jp  
Website \_\_\_\_\_  
幼児児童生徒数 男子 38名 女子 40名 合計 78名  
幼児・児童・生徒の年齢 3歳～5歳

### 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

### 3. 活動内容 ※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

#### (1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

E S D の実践を通し個々の生活力を伸ばし、主体的な生活を送れるようになることで様々な課題解決につながる行動力の育成につながると考えた。手立てとして地域の恵まれた自然環境や人材を活かした遊びの体験、人とのかかわり、環境とのかかわりを重視した。今年度は、1 年間の遊びのつながりを意識し地域の課題に目を向けた教育、保育を行った。

本園の近くの山には竹林が多くあり竹林の持ち主が高齢化し竹林を放置しているケースが多くあり静岡市で放置竹林の使い方を考えていることを知った。そのことをふくみ「竹林を含む地域を取り巻く自然環境を保育に活かす」を考え、竹を使った活動の見直しを行い 1 年間の遊びのつながりを考えた実践が以下である。

4 月、地域の方の竹林を貸していただき竹の子堀をした。友達同士お互い教え合って探し「あった」「こっちにもっとあるよ」と大喜びで、園に持ち帰るとすぐに皮をむき、ゆで竹の子を切り、竹の子ご飯を食べた。自分たちで作った竹の子ご飯はとてもおいしく喜んでいた。

静岡市では放置竹林が問題になっていることを知り竹粉で堆肥作りを推奨している講師を招き子どもたちに指導していただいた。講師が竹粉を見せて「この粉なんですか？」と問うがすぐに答えが返ってこないが「実はこれでできている」と実物の竹を見せられ、子どもたちは自分たちの経験や体験したことから話をした。作り方を教えていただき、毎日竹粉と野菜のくずをかき混ぜていくと不思議と匂いがなくなり野菜がさらさらの粉に変化したことに驚いた。この不思議な体験も子どもたちの心を大きく揺さぶりました。園庭の花壇や畑で野菜や、花を栽培しているため竹粉の堆肥を使っていくことで栽培にも興味関心が高

まった。

6月に家族参加会で年長児が竹ぽっくり作りをした。親子の共同作業でのこぎりで竹を切っていくと竹の粉がたくさん出た。子どもたちは堆肥作りの竹粉を思い出し「この粉、また、使おう」と粉も大切に集めた。親子で作った竹ぽっくりはうれしくて、何度も練習していた。

竹ぽっくり用に切ってきた竹が太くて転がすといい音がしたため担任は竹太鼓になるのではないかと考え、夏まつりで使った。夏祭りの準備をしながらおみこしと一緒に並べておくと年長児だけではなく年少組の子どもたちも竹太鼓をたたいては喜んだ。その後プールで竹の水鉄砲を作り遊んだ。運動会でも竹太鼓を使い忍者になってのリズムや競技を楽しんだ。その後、祖父母参加会では竹人形を祖父母と一緒に作ったり卒園製作で個々の人形を作ったりして竹の感触や竹のかもしだす雰囲気を楽しんでいた。



竹の子堀から竹の子ご飯



自分達で掘った竹の子を園まで持ち帰り皮をむきクッキングして年少年中児にもごちそうしてあげました。全園児でおいしくいただきました。



## 竹粉の堆肥作りから栽培まで



竹粉の堆肥作りの説明を聞いて自分たちで体験しました。



最初は野菜がサラサラの粉になるなんて思いもよらなかった。



日に日に変化していくことを不思議に思い毎日多くの子どもたちがかき混ぜていた

出来た堆肥を園庭花壇や畑に入れて野菜やサツマイモの栽培に使った。

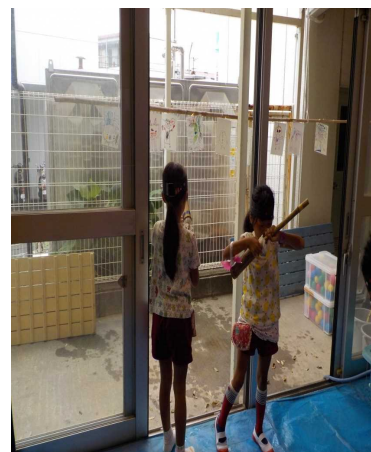


完成した時はみんなで驚いた。

## <竹を使ったおもちゃ、竹太鼓、竹人形>



竹ぽっくり



竹の水鉄砲



祖父母参加会で竹を使って製作

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育(GCED)	
<input type="checkbox"/> 16.ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(日々の生活、あそびの中で )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程(指導計画)にどのように位置付けているか。  
指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本園の教育及び保育の全体構想の中に目指す子どもの姿として静岡市環境教育基本計画及びE S Dとして記載してある。

また、教育課程にも各年齢に応じた高めたい姿、指導内容を記載

園内研修の中に位置づけを明確にしてある。

研修テーマ 「やってみたい」「もっとやりたい」と思える環境構成

手立て 地域の自然環境を保育に活かす

- ・ 地域の自然や文化の活用 (E S Dを意識した活動)
- ・ 身近な自然物とのかかわり方の教材研究

園内研修として位置付けてあるので振り返り、評価もしやすい。しかし、教材研究は個人なのでたっぷりと時間を保障していかないといけいない。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

公立こども園のため職員の異動がある。ユネスコスクールやE S Dについて知らないと理念が受け継がれない。遊びや活動の形だけが残るだけで本来の育てたい力や姿がわからなくなってしまうようにする。

必ず年度当初ユネスコスクール、E S Dの研修を行う。園長や知っている職員だけのこととししない。園全員で行う。園内研修に位置づけるようにしている。

P T A総会でも園の方針としてユネスコスクールの意味を話す。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

園の重点目標が本園のユネスコスクールの考えある「ひと もの こととのかかわりを楽しむ子」のため評価しやすい。評価でも子どもの育ちを学校評議委員の方たちとも共通理解できた。子どもたちが少しずつ自分からいろいろなことに関わってきているが、まだ主体性の部分では育ちを期待したいとの意見が多い。地域の環境を保育に取り入れながら子どもたちの主体性を伸ばす保育を工夫していく。

地域の子は地域で育てるという学校教育の元であり開かれてこども園を目指しているため評価しやすくなっている。

子どもたちの生活が豊かになった。

- ④ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)  
※チェック事項 2-2 に対応

ESDカフェやいろいろな場で本園の実践を話したことで園の保育についていろいろな意見を聞くことができた。多面的にみられるようになった。

- ⑤ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)

(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

静岡大学の協力をえて他校、他県との交流ができた。

- ⑥ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

平成29年度はタイの国際会議で実践発表する機会があり他国の実践も知り参考になった。

- ⑦ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度)

文科省のESDの考え方やSDGsとのつながりが見えてきた。

静岡市がSDGsを見据えた考え方を出してきたがまだESDを幼児期から行っていることへの関心が少ない。

保護者に理解され来年度からエコ活動は保護者も巻き込んでいけそうである。

※チェック事項 2-5 に対応

(3) 平成 30 年度の活動計画 (200～400 字程度)

- ① 国際化 本園の幼児の 1 割が外国の子どもたちなので外国への関心を高めていく。  
外国の保護者に国自慢の料理や風土の紹介
- ② 資源回収、ごみ分別を子どもが行う年 10 回、環境週間作り
- ③ ESD を踏まえた研究保育、公開保育を行う。近隣の小中学校、こども園に公開保育  
に参観してもらう。